

慈雲

3 1 号

2014/3

真宗大谷派 慈雲山 瑞蓮寺

慈雲会

〒604-8214

京都市中京区新町通蛸薬師下る

百足屋町375番地

TEL/FAX (075)221-4616

zuirenji@nifty.com

<http://www.zuirenji.net/>

SinsyuuOotaniha

JiunzanZuirenji

Jiunkai



時阿闍世
驚怖惶懼
告耆婆言
汝不為我耶

【『觀經』の言葉】

時に阿闍世あじやせ、驚怖きょうふし惶懼おうくして、耆婆きばに告げて言わく、「汝なんじ、我がためにせざらんや」と。

阿闍世王は耆婆と月光の二大臣から厳しい諫めを受けました。その時に阿闍世王は非常に驚き、おそれ、うろたえたとあります。怖・惶・懼とおそれ、こわがるという字を三つも連ねており、阿闍世王がどれほど驚きおそれたかが表されています。二大臣が自分を捨てて父王の元へ行くのではないかとおそれたのです。

目の前の二臣の様子に恐れうろたえる様子が描かれています。この時、弱い一人の青年としての阿闍世が顔を出したのでしょうか。

【「正信偈」に学ぶ】⑨

今回は

成等覚証大涅槃
必至滅度願成就

の二句を学びたいと思います。

等覚を成り、大涅槃を証することは、
必至滅度の願成就なり

と読みます。

「等覚」とは等正覚（正覚と等しい）ともいいます。正覚は仏さまのおさとりのことですから、その正覚と等しい位であるという意味です。それは、大涅槃を証することであるというのが一句目の内容です。大涅槃の涅槃とはインドの古い言葉であるサンスクリット語で、ニルヴァーナといい、煩惱の燃え盛る火が消えた境地、言い換えますとさとり of 境地のことです。

ニルヴァーナのもともとの意味は、ろうそくの灯がフツと消えた瞬間を指すらしいのですが、そのように日々燃え盛る煩惱の炎が消え去った境地です。

そしてそれは、阿弥陀仏の四十八願のうち第十一願である必至滅度の願が成就したからであるというのが二句目の意味です。必至滅度の願とは、

たとい我、仏を得んに、国の中の人天、

定聚に住し必ず滅度に至らずんば、

正覚を取らじ。

というものです。

ここでは「等しい」という字が目の付け所です。おさとりそのものである正覚と言わずに、それと等しい位であるといわれるのはどういう意味でしょうか。

私たちは、お念仏の教えを聞いて、心に明かりが差し、私のようなものもよく仏さまは捨てずにおつてくださったなど思う時、心も晴れ晴れしく、喜びに身も心も包まれ、まるで迷いが無くなったように感じます。しかし、私自身の煩惱が消えて無くなったわけではありません。気に障ることがあれば、すぐムカツとくるのがその証拠です。「等しい」という、薄皮一枚のところにお念仏と私たち衆生の絶対に超えられない壁があるのです。

むしろ、煩惱があるからこそ、仏さまの光明が受けられるのではないでしょうか。世界的仏教学者の鈴木大拙先生が、森ひなさんというお念仏よろこぶ生活をしている人に対談を求めてきました。森さんは、そんなえらい先生がうら（わたし）のところを聞きに来るのかと思いましたが、自分の心の喜びだったら実際に感じていることだから話すのは訳ない、と思つて対談を受けました。

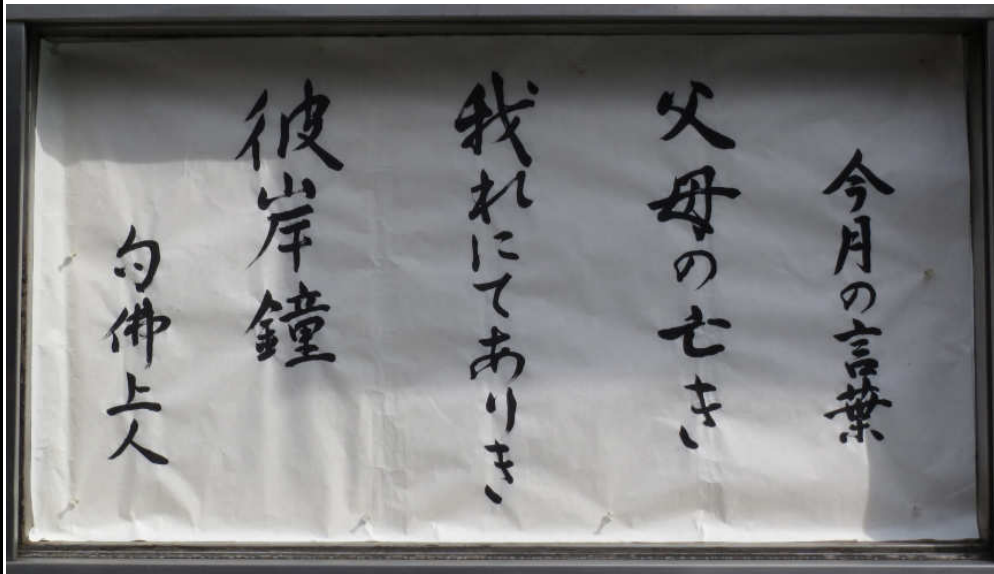
お話が進み、最後に鈴木先生は「その煩惱を半分私にくれんか」と言われたとき、森さんは「是だけはいくら先生でも差し上げられません。これがあるからこそ罪深いうらも阿弥陀さまのお照らしをいただいて歩むことができるのだから、この煩惱はうらの一番大切なものだ」と答えられたといいます。

煩惱の選手といえれば私たちも負けてはいけません。日々の生活の中で、教えに触れる場があります。

そのような私たちをよくご覧になつて本願を建てられた阿弥陀さまを思います。

【掲示板の言葉】

昨年より句仏上人の句をお寺の掲示板に書かせてもらう機会が増えました。日々の暮らしの中で、上人がお念仏を喜んでおられる姿が感じられます。今月の句は、お彼岸の句を選ばせていただきました。



【易行風】

先日、とある集まりで三帰依文を唱和したら、すらすらと口から出てきませんでした。今までは言えたのに。「年末からこちら色々な事があり、忙しかったからなく。」と言い訳している自分に気がつきました。お恥ずかしい。そこで、改めて三帰依文を読み直してみると、意味の判らない言葉が有る事に気づかされました。今まで暗記して唱和していた事が、呪文を唱えているのと同じになっていたと気づかされました。(正信偈、他のお経もそうではないか。)

判らない言葉の一つが『体解』で、単語を調べてみると『理解して自らのものとする』事とありました。そうすると疑問が膨らんで気になったので、他の単語も調べ

『大道を体解して、無上意を發さん』

とは『仏道(仏の教え)を理解して自らのものとし、仏道を求める心(菩提心)を持つとうと願う』と言う事だと理解しましたが、自分の理解に不安を覚え、さらに調べてみました。今は便利なもので、インターネットを使って調べると、多くの注釈が出てきます。

その中の一つを掲載させて頂きます。

『私は、この愚かな身を真実へと導き、人間に生まれた意味と尊さに目覚めさせてくださったお釈迦さまの教えを、生涯生きる拠り所としていただいてまいります。そして迷い悩めるすべてのいのちあるものの願いを我が願いとして、真実の大きいなる道であるお念仏をこの身に深く味わいながら、この世に生きる真の喜びと満足を見出してまいります。願わずにはいられません。』

(訳者により内容はまちまちです)

と書かれていました。なんと多くの事が表現されているのか、驚きで一杯です。他の文章も同じように多くの事が表現されており、機会があれば三帰依文について、聞法したいと思いました。

今回、改めて三帰依文を読み直し、調べ、学べた事、また言い訳をする自分に気づかされた事。これらの仏のお導きに感謝し、有り難く思います。これからも仏のお導きのもと、色々と学んでいきたい、いや、**無上意を發さん。**

【お彼岸のお知らせ】

三月二十一日(金・祝)

春の彼岸会法要を勤修します

午後一時より納骨堂を開きます

二時 お勤め

三時 法話

高鳥 沈陽師

大阪教区専光寺住職

講題「苦悩の有情をすてずして」

四時 慈雲会総会

総会終了後 お青

~~~~~ . ~~~~~

【慈雲会総会のお知らせ】

三月二十一日(金・祝)彼岸会法話終了後

議題

平成二十五年度 行事・事業報告

平成二十五年度 決算報告

平成二十六年 事業計画説明

平成二十六年 予算説明

その他

【お磨きのお知らせ】

春の彼岸会に先立ち、仏具のお磨きをします。皆様ふるって御参加下さい。

三月十八日(火) 午前九時より

~~~~~ . ~~~~~

【編集後記】



暖かかったり、寒かったりで、体調管理が難しい季節ですが、皆様如何お過ごしでしょうか。今年最初の慈雲会をお届けします。今年もよろしくお願い致します。御門徒のKさんが長浜の盆梅展で撮影した写真を送ってくださいましたので掲載させて頂きます。春の到来を感じさせる奇麗な色の梅ですが、印刷でうまく表現できるか心配です。

皆様からのお手紙、イラスト、他御寄せ下さい。

長塩浩史

お願い

平成二十六年年度の年会費五千円よろしくお納めください。

皆様が運営する皆様のお寺を目指し、またお寺を通じて広く社会に貢献したいと存じます。

振り替え用紙を同封致しますが、既にお納め下さっている方はご容赦下さい。

瑞蓮寺のホームページができました。

<http://www.zuirenji.net/>